

志賀神社六神儀口上書

『一番舞』

「参りましやー 参りましやー」

「京都に来けしや 百坂や、八坂を越して 御前に参ろうやー」

『二番舞』

「幣を立て こは高天の原なれど、集まりたまえや世もの神々ー」

「ちはやふる 神にうちむき幣捧げ、申す祈りもかなわざるまいー」

『悪魔払い』

「とおー、我はこれ 当社志賀神社の悪魔払いとは そうも某なり」

「一季 二季 四季 災難 百あつて九つ、百のねんぼうまいらかす」

「とうほうに剣 悪魔も寄せず 魔ま寄せず ところがための奉茄子ー」

『三番双』

「かしましー かしましー」

今日今晚参る拙者の氏子ども なりを鎮めて者の子細を聴きたまえ

天神七代の大御代には、神楽と言う事 まつた此れ無し

地神五代の大御代に、神楽と言う事 始まつて此れ有り

一男に伊勢の天照皇大神宮、二男に春日の大明神

三男と申し奉るは 津の国かけいの郡 西の宮

胡三郎星子の明神とは そもそも我が事なり

今日今晚神楽を舞うには、招魂の鈴を振り鳴らし、青葉の笛を吹き鳴らし

百二十丁部の音楽を取り揃えて おんばやし候」

『道化』

「ちよいと出て 目に付く物は棚の餅 一つくれたら舞を舞いましょう」

「そもそも神の御前にまかり立つたる某は いかなる者よとおぼしめさん
我はこれ 八幡様の両側にたつたる 甘酒ねぶりの化道丸とは

そもそもやつがれのことにてそうろう

「八幡様よー 八幡様よー、

八幡様の御座る屋敷はひわだぶき 黄金すだれに玉の神幕

八幡様よ 御座れば御座れ今御座れ 葦毛の駒に 手綱よりかけ」

『十良節』

「そもそも神の御前に まかりたちたる某は 如何なる者よとおぼし召さん
これはそも 出雲の国は杵築第三の姫 十良節とは 自由にて候
天より悪を一人降り来たり 夜に千人日に千人 参る素性を取り滅ぼさんが為
法鞭の弓には神通のかむろ矢を取り揃え 来る悪魔を取り防ぎばやと存ず」

『鬼』

「それに参りたる神は 如何なる神にてましますか
とおー おん名のりそおらえ」

『十良節』

「出雲の国は 杵築第三の姫 十良節とは自の事にて候
天より悪を一人降り来たり 夜に千人日に千人 参る素性を取り滅ぼさんが為
法鞭の弓には神通のかむろ矢を取り揃え
来る悪魔を一旦取り防ぎばやと存ず」

『鬼』

「ほおー 八万四千の鬼神の大将とは我が事なり
返せや返せ 元の孫子に取り反さん」 (とおー)

『十良節』

「あーら嬉しや喜ばしや汝が矢先にとらえたり」

『鬼』

「いとわんぞや十良節 我がしごする神とても 鹿島かんどの大明神
住吉山には梅の宮 天に於いては 天の橋立てともうすなり
三十三転大六転 惡性凶風吹き来たれば 空風方皆とも吹き散らば
あの山取つてもひつ返し この山取つてもひつ返し
きた山取らずば帰るまじ」 (とおー)

『十良節』

「あーら嬉しや喜ばしや 汝が矢先にとどめたり」